

Uniceratop

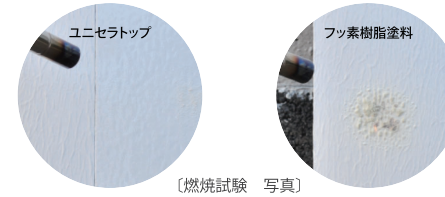
ユニセラトップ



Uniceratop

ユニセラトップ

耐熱・不燃性



〔燃焼試験 写真〕

不燃性を有しているため、ユニセラトップを塗った面は燃えにくく、火災時の延焼を防ぎます。ユニセラトップは独自の燃焼試験により耐熱性・不燃性に問題がないことを確認しております。

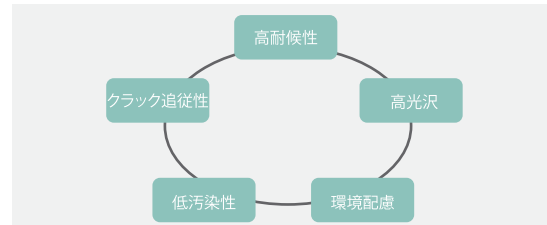
環境性



プライマーは弱溶剤、トップコートは水系と弱溶剤のため臭気が柔らかく、居住者にも配慮しています。またユニセラトップは健康に悪影響を及ぼす有害な原材料を一切使用しておりません。ホルムアルデヒドの放散量も抑えられたトップコート材です。

ユニセラトップの特徴

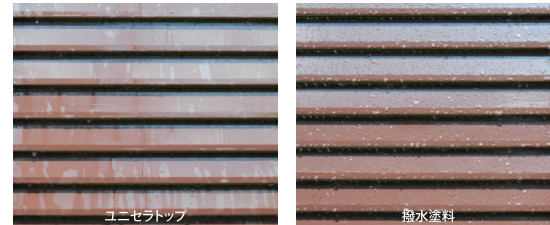
高耐候性トップコート



ユニセラトップは無機・有機のハイブリッドコーティング材です。無機の優れた高耐候性・低汚染性・耐熱不燃性・高硬度に、有機のフレキシブル性を併せ持つ、紫外線や雨、風に強いトップコート材です。

※期待耐候年数20年(メンテナンス標準サイクル約16年)

低汚染性

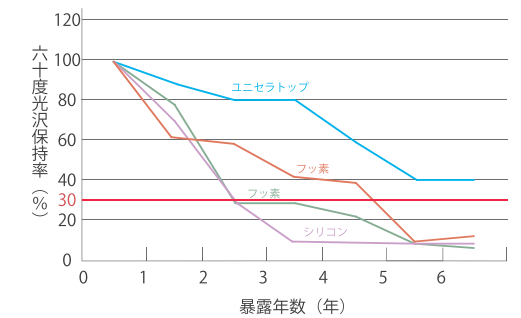


ユニセラトップは、主成分であるオルガノポリシロキサンにより、塗膜表面が親水性となっていきます。この親水性により、雨水が塗膜表面に広がり、外壁の汚れを浮かび上がらせて洗い流します。

光沢耐候年数

ユニセラトップは耐用年数が長く、紫外線や雨、風、塩害に強いことが最大の特徴です。塗料の耐用年数を検討するための試験結果として最も重要な項目が光沢耐候年数です。7年以上の野外暴露試験で塗膜に強い紫外線を与え続けても、ユニセラトップは高い光沢を維持します。一般的に光沢保持率が30%を下回ると塗り替えのサインとなりますが、(表1)のように、ユニセラトップはフッ素樹脂塗装と比較しても非常に高い耐候性を持つことがわかります。

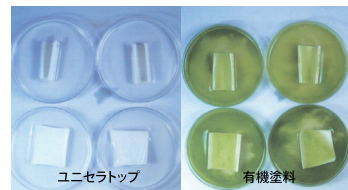
光沢耐候年数 (表1)



防藻・防カビ性

一般的に水性塗料は、藻やカビが発生しやすい材料です。ユニセラトップは防藻・防カビ性能を標準付与しています。

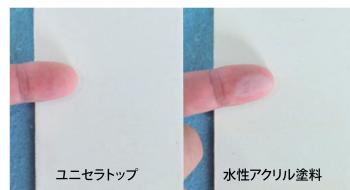
〔防藻試験 写真〕



耐白亜化

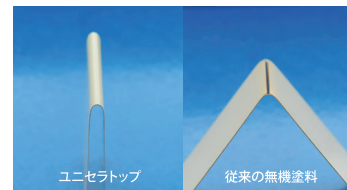
ユニセラトップは、色褪せや光沢の低下、塗膜表面の白亜化を起こしません。

〔白亜化試験 写真〕



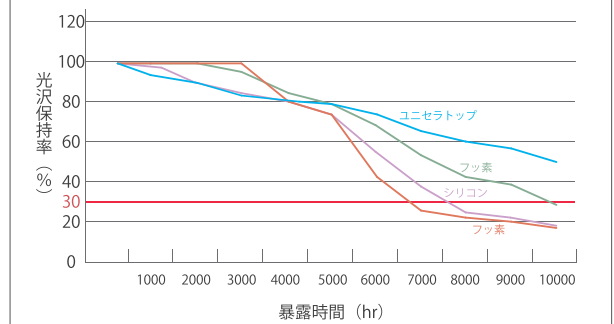
フレキシブル性

独自のハイブリッド技術により、無機トップコート材では成し得ない有機トップコート材のような優れたフレキシブル性を持っております。



本州の3~5倍の紫外線による劣化促進率を持つ沖縄県宮古島の厳しい気象条件の中、10年にわたり暴露試験を実施。(表2) フッ素樹脂に比べ、6年経過時にユニセラトップは光沢保持率40%以上を保持しており白亜化も確認されておりません。

促進耐候性試験 (表2)



Exterior



Exterior